

難防除雑草

「ナガエツルノゲイトウ」に注意!

河川・用水路を介して*特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の発生区域が拡大しています。定着すると駆除が困難な雑草で、生態系や農業へ悪影響を及ぼします。用水路、水田の水口付近や畦畔を見回り、早期発見・早期駆除に努めましょう。

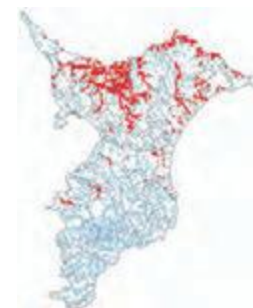
※特定外来生物は、法律で栽培・運搬等が禁止されています。

特徴

【再生力:大】数cmの茎断片から容易に発根

【拡散力:大】茎はちぎれやすく、水に浮く

【侵略性:大】乾燥に強く、畑地などにも侵入



県内の分布状況(2023年)
(県調査結果により作成)

注意!

刈払機を使った除草は、茎や根の断片が
周囲に飛散してかえって発生場所が拡大します!



ナガエツルノゲイトウの見分け方



【葉】

節から一對の葉

葉の先はややとがる

1cm

長さは 2.5~5 cm
幅は 0.7~2 cm

【茎】

1mm

茎は空洞（ストロー状）

節に短い毛

茎の表面はなめらか

節からよく分枝

【花】

開花期:6月~10月

球状花の直径は
約 1~1.5 cm

花柄は約1~4 cm

花柄は葉の脇から伸びる



水路で群落となる

間違えやすい植物

ツルノゲイトウ（外来種）



・球状花は葉の脇にくっつく
※ 花のない時期は見分けが困難

アメリカカサブロウ（外来種）



・葉の鋸歯は明瞭
・花は球状でなく平たい

タカサブロウ（在来種）



・葉の鋸歯は不明瞭
・花は球状でなく平たい

出典:ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル(農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構)

水田における対策

水田に侵入させない

- 水口に3ミリ目程度の種子もみ袋等の網を設置し、茎や葉の流入を防ぎましょう。
- 水田に侵入していないか、水口周辺をこまめに観察しましょう。
- 耕うん機等に付着して拡散するので、発生の無い水田から耕うんし、よく洗浄しましょう。



水田や畦畔でまん延させない

畦畔・本田で発見した場合は、下図を参考に除草剤で防除しましょう。

※ラベルの表示を事前にしっかり確認(適用場所・使用量・散布回数等)

※刈払機で除草すると、茎や根の断片が周囲に飛散して断片から再生するため、かえって発生場所が拡大します。

		移植		中干し		出穂		収穫	
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
畦畔防除	いずれかを散布	●カソロン粒剤6.7 ※畦畔崩壊しやすい場合			●ザクサ液剤				●ラウンドアップ マックスロード
			●ラウンドアップ マックスロード		●ロイヤント乳剤 ・収穫前45日まで ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで				
水田内防除	区分	移植			中干し				
		4月		5月		6月			
	体系防除A (散粒機及び大型噴霧器使用)	●バッチリLX1キロ粒剤 (田植同時～移植後7日)			●ロイヤント乳剤 (移植後約40日) ・落水又はごく浅く湛水 ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで				
	体系防除B (散粒機使用)	●ピラクロン1キロ粒剤 (田植同時～移植直後)			●ウィードコア 1キロ粒剤 (移植後約15日) ・ナガエツルノゲイトウの草丈5cmまで				

本資料に係る研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」JPJ0079666の補助を受けて行った

水田以外の対策

- 群落規模や現場条件に応じて、人力または重機での抜き取り・剥ぎ取りを検討。
※成長の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効
※除草剤は水系に流出するおそれのある場所では使用しない。(河川敷や水路など)
【その場で枯らす場合】
 - ①袋に密閉して、厚手のブルーシートの上に置くなどして枯らしてください。
 - ②自治体のごみ処理方法にしたがって処理してください。

「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル」(農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構)より抜粋

【お問合せはお近くの農業事務所まで】 作成:千葉県農林水産部環境農業推進課

令和6年11月

